

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	01936000153		
法人名	株式会社 二千翔		
事業所名	グループホーム ほたる		
所在地	苫小牧市拓勇西町4丁目19-27		
自己評価作成日	令和7年3月15日	評価結果市町村受理日	令和7年5月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyousoCd=0193600053-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和7年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念『ありがとう 言われるよりも伝えたい』
人生の先輩でもある、入居者の方々に敬意をもって、日々「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えられるような支援を職員全員が目標にし、実践につなげられるように目指しています
前年より変わらず面会制限中ですが、会いたいときに会える時間を楽しみ過ごしていただけるよう努めています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームほたる」は2006年5月に、苫小牧市沼ノ端地区で開設し今年19年目を迎えます。地域は新興住宅街で、展望台のある大きな公園が目の前にある緑豊かな環境です。建物は2階建ての2ユニットです。近所の保育園児とは敬老会やハロウインの時に交流があるほか、近隣中学校の職場体験に協力しています。苫小牧市は認知症サポーターの育成に力を入れており、認知症キャラバンメイトの資格を持つ職員が定期的にサポーター育成講座の講師を務めるなど、市の福祉政策の一翼を担っています。「ありがとう、言われるよりも伝えたい。」を理念に掲げ、食事や入浴は個々の利用者のペースに合わせて必要な支援に努め、利用者の意向・希望を尊重した暮らしを提供しています。利用者の高齢化や重度化が進むなど様々な課題がある中、自治体や地域包括支援センター、民生委員などの協力やアドバイスを受け、職員のチームワークを武器に、サービスの質向上に取り組んでいます。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらい 3 家族の1/3くらい 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらい 3 職員の1/3くらい 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらい 3 家族等の1/3くらい 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に掲示し、職員間で共有し実践に努めている	理念は玄関や居間に掲示して周知しているほか、職員には入職時研修や毎月のカンファレンス時に再確認しています。職員は日々の一つひとつのケアの際、行動をおこす利用者に都度「ありがとう」を伝える大切さを実感しており、理念の浸透を図っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ等の感染症などで面会制限している中で交流は難しい状況。近隣の小中学校、保育園とのつながりが切れないように努めている	敬老の日やハロウィンなど行事を通して近所の保育園との交流があります。毎年、近隣中学校から職場体験の学生を数名受け入れるなど、地域協力にも努めています。運営推進会議に出席している民生委員から、地域情報を得て地域ニーズを把握しています。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小中学校での認知症サポーター養成講座や中学校の職場体験の受け入れを行っている		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の議事録を回覧、確認し実践に活かせるよう努めている。議事録は全家族へも配布している	令和6年度は奇数月に開催し、苫小牧市、地域包括支援センター、家族、民生委員等が参加しています。会議では運営状況や行事、職員研修、事故報告のほか、参加者が活発な意見交換をしています。令和7年3月の会議は避難訓練を同時開催し、参加者から感想を得ています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で伝え、何かあれば都度報告・相談し、協力関係を築けるよう努めている	介護認定の更新や事故報告、集団指導などの日常業務で連携しています。市が開催する認知症サポーター養成講座に、キャラバンメイトの登録を行っている職員2名が講師として年に複数回、協力を行っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進委員会を開き安全対策としてのセンサー、サイドレール等の使用について定期的に話し合っている。夜間のみの施錠で対応しているが、日中不審者の侵入に対しての不安はある	身体拘束廃止推進委員は3ヵ月に1度、虐待防止委員会は年2回、各指針に基づいて開催しているほか、カンファレンス内でも職員の理解浸透を図っています。安全のために使用するベッド柵やセンサーマットの設置については家族同意を得て、介護計画に記載しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内やネットを使用しての研修を行うほか、都度職員間で虐待行為につながらないように話し合っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がいるため、個々の必要性については理解している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退去・看取り等充分な説明をご家族様にさせていただいた後に契約を行っている。また、改定の際には説明の後同意書をいただいている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・避難訓練等に参加時の意見や要望だけでなく、面会や通信支援の際にも要望を言いやすいような関係作りに努めている	家族には毎月、利用者別に直近の様子と写真、担当職員の直筆手紙を送付した際や、面会時、介護計画更新時に意見等を聞いています。直近では全家族が集合する行事を望む声があり、夏祭り等のイベントの開催を検討しています。	入居者は近隣で独居生活をしていただいていた利用者が多く、道外など遠方で暮らす家族との面会や交流はそう多くはありません。そういった家族の心情も配慮し、アンケートの実施など、様々な工夫で意見・要望を収集する機会や場面を作ることを期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に話し合い、その結果を管理者より施設長・代表者へ伝えている	職員は日常支援の様々な場面で意見や提案を述べ、業務の効率化や支援の質向上に貢献しています。今回の外部評価にあたって全職員が自己評価に参加して業務を振り返り、課題の共有や今後の目標を話し合っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の事情に合わせたシフトの作成、職員の負担が軽減され働きやすい職場作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	少しずつ外部研修も増え、施設内やリモートでも行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	外部での直接的な交流は行っていないが、リモートでの交流など少しずつできている		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談の際、本人・家族の困りごと、要望をお聞きし、自分らしく生活できるよう努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話で要望を聞き会話の機会を持つことで良い関係を築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族との会話の中から要望、不安等をくみ取りケアプランを作成しサービス提供に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの性格等に合わせた声かけ、言葉使いを工夫し暮らしを共にする者同士の関係を築けるよう努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や通信、面会時等で現況報告を行いなじみの関係を築けるよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限中ではあるが、家族からの要望があれば、感染対策を行い対応できるよう支援している	感染症対策のため、面会時間の制限はありますが、家族との外出や外泊は自由にできます。友人、知人も高齢となり交流が少なくなりましたが、前任の介護支援専門員の訪問もあります。入居後は、定期的に訪問する理美容師や看護師との関係性が新たに深まっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人の時間を大切にしながら周りとの関係も築けるよう一緒に過ごす時間を設けている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も今までの関係は変わらないこと、いつでも相談に乗れることをお伝えしている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話を大切にし、表情・しぐさ等から本人の希望に添えるよう、困難な時は家族にも相談しながら本人本位で話し合っている	暮らし方の希望は、家族から得た情報や人生歴や日常会話から把握しています。意思表示が難しい利用者には、表情やしぐさから思いや意向を推察しています。直近では、買物外出を希望した利用者に同行し、店舗までの歩行、購入品の選択、代金の支払いを見守っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のフェースシート、本人・家族からの聞き取りを職員全員で共有し把握できよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化をサービス提供記録、申し送りで職員間で共有し把握している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングで意見交換を行い、大きな問題となる課題の際は、家族にも協力していただきケアプランを作成している	アセスメントと日々の記録を基に、計画作成者が立案した介護計画は、毎月のカンファレンス、全職員による課題整理総括表での確認、モニタリングを経て、次の計画に繋げています。計画は4カ月を基本に、心身の状況の変化に応じて随時見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のサービス提供記録、経過記録、医療経過記録で情報を共有しカンファレンスなどで話し合っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランを基本としながら、その状況に合わせた支援を行うよう取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出前や貸し出しなどを利用し楽んでもらえるよう工夫している。また、訪問診療を利用し安全に暮らせるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医(月1～2回)の往診や定期的な訪問看護で対応している。必要に応じて他の病院も受診できるよう支援している	全利用者が毎月2回の往診がある協力医療機関と契約しています。専門医への通院は家族の協力を得ていますが、精神科受診の際は職員も同行しています。週1回の訪問看護、月2回の訪問歯科、往診可能な皮膚科など、複数の医療機関との連携を行っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師による週1回の定期訪問のほか、緊急時には24時間体制で電話による相談・指示、必要に応じ訪問を受ける体制ができています		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換を行い、主治医・訪問看護とも連携し早期退院できるよう努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時より本人・家族と話し合い、医療ケアに関する確認書に添った要望を主治医・訪問看護と共有し、状態が変化した際は改めて話し合っている	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、経口摂取ができなくなった時の対応や緊急搬送の希望など詳細な項目の意思確認を得ています。職員は内外の看取り研修やOJT、訪問看護師からの学びを得て、看取り経験を重ねています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	24時間体制で連絡し指示を受けられる体制は整っており職員全員が対応できるよう話し合い実践が身についている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、BCPの研修等職員全員が対応できるよう行っている。地域協力は難しいが協力体制が築けるよう努めている	火災避難訓練は令和6年9月と令和7年3月に夜間想定で行い、振返りをしています。BCP研修、感染症訓練、地震想定避難訓練などは年間計画に従って実施しています。食事や入浴支援中の災害に対応するため、日中帯の避難訓練も検討しています。	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や状況に応じて声のかけ方や内容に配慮するよう努めている	接遇マナーについては、身体拘束廃止推進委員会やカンファレンス時に、自尊心の尊重や羞恥心への配慮、否定的な言葉使いをしないことなどを職員で共有しています。日課の参加をはじめ、食事や入浴の時間についても強要せずにプライバシーの保護に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を大切にし思いや希望を言いやすい関係づくりに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個々のペースを最優先に意図をくみ取り、自由に暮らせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みを配慮し、洋服、お化粧、おしゃれを楽しめる環境作りに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みや使いやすい食器等を把握し、食事形態にも配慮し、安全に楽しく食事ができるよう努めている	食事は配食業者を活用しているほか、月に10食は直接食材を購入して利用者のリクエストに応じています。行事食や特別食の際には、機材をレンタルして事業所内で回転ずしを提供することもあり、好評を得ています。刻み食などの多様な食事形態にも対応しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの持病を把握しサービス提供記録に記載し必要な食事量、水分量が摂れるよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方には声かけのみで自分でできるように支援している。スポンジブラシや口腔ウェット等個人に合わせたものを使用している		
43		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し必要に応じて誘導、声かけを行い排泄できるよう自立支援につなげている	個別の「サービス提供表」で食事や睡眠時間とともに排泄の記録を取り、パターンやリズムを把握して職員共有しています。衛生用品は時間帯に応じて種類を変えているほか、誘導の声掛けやおむつ交換は羞恥心や自尊心に配慮して行っています。	
44	17	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬の調整も行っているが、薬に頼るだけでなく、乳製品等積極的に提供し、便秘の予防に努めている		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	時間、曜日にとらわれず本人のタイミングで入浴できるよう支援している。拒否の強い方にも配慮し情報を共有しながら対応している	入浴は曜日や時間帯を決めず、個々の利用者の希望やタイミングに合わせて支援しています。入浴一覧表を記録し、拒否者には工夫した声掛けで入浴を促しています。入浴をはじめ日常生活全体に同性介助を希望する場合も意思を尊重しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで休息を取っていただいている。夜間ゆっくりと眠れるよう、日中活動できるよう声かけにも工夫している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は個別にいつでも見られる場所に保管しており、職員はそれを把握できている。誤認防止に努め、変化がある際には訪問看護に相談し医師の指示を仰いでいる		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や好みを把握し季節を感じて楽しんでいただけるよう努めている。状況に合わせてできることをお願いしている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ以降外出はほとんどしていないが、以前は一人で外出できていた。感染対策をしながら要望があれば少しずつ増やしていけるよう努めていきたい	長期間の外出制限により、利用者の外出への興味や意欲が激減しています。利用者の高齢化・重度化に加えて、職員の人員不足も重なり、日常的な外出も滞りがちです。外出は利用者職員双方に気分転換などの効果が得られるほか、地域住民との交流も期待できます。新年度は、利用者が負担を感じない外出支援を計画し、継続することを目指しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望された方は所持している。その方の状態に合わせて職員が頼まれたものを買ってくるなど支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話、携帯などいつでも連絡することができ、大切な方と途切れることがないよう努めている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち安全に移動できるよう環境を整えエアコン、暖房を調整し快適に過ごせるよう努めている。季節を感じていただけるよう壁面の飾りつけも工夫している	食堂兼居間は南向きに面し、大きな窓からの採光は豊かです。季節感を取り入れた掲示物や絵画をさりげなく飾り、ゆったりと寛げるソファ等を配置して家庭的な雰囲気を提供しています。体感温度をうまく表現できない利用者が多く、温湿度管理には特に配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり自分たちのペースで過ごせるよう工夫しており、必要に応じてのレイアウトは特に気を配っている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみのものを使用していただきレイアウトも本人、家族と相談しながら危険なものを取り除くなど工夫している	居室は家族写真のほか、相撲の番付表、面会家族用のソファ、数多くの洋服をかけたハンガーラックなどを持込み、それぞれの利用者が自身の生活や趣味を楽しめる空間となっています。家具や寝具は動線を考慮して配置し、整理整頓や衛生保持に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりやすいようにプレートを設置するなど場所を提示している。車いすの方も安全に移動できるよう動線を確保し環境を整えている		